

学校教育目標	心豊かで自ら求めて学び生き生きと活動する生徒の育成
--------	---------------------------

a ミッション	1 ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善 2 小中連携による主体的な学びの実現と発信	aビジョン 1 生徒が生き生きと活動し、楽しく安心して学習・生活できる学校 2 教職員と生徒が協力し、創造的・自主的に活動する学校 3 よく整備され、明るく美しい学校	尾道市立 因北中学校
---------	---	--	---------------

グロ ー バ ル 社 会 を 生 き 抜 く 水 軍 魂 の 継 承 知 力 ・ 活 力 ・ 組 織 力	評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画		
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価		l コメント	m 改善案
											イ	ロ	ハ	
<p>【生徒が主役の授業づくり】</p> <p>「主体的な学びを促す授業の創造」により、確かな学力を身につける。</p> <p>○県平均を各教科4ポイント以上上回る。</p>	<p>【知力】</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得</p> <p>○思考力・判断力・表現力等の育成</p> <p>○学習意欲の向上</p> <p>○広島県「基礎・基本」学力定着状況調査において、全教科県平均を上回る。</p>	<p>「因北ナビゲーション」による指導の徹底と小中連携</p>	<p>【授業改善】</p> <p>◎学びを深める授業デザインを意識した授業づくり(各教科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の発言の予想と分析表の作成 授業後の研究協議会のスタイルの確立 	「授業デザイン」を意識して授業に臨んでいる教師の割合【新規】	100%	89%	93%	93%	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究会を通して、各々の「授業デザイン」に対する意識を高めることができた。その結果、「生徒の発言の予想をしている教師の割合」は92%と上昇した。 今後、学びの深化に向けて「生徒同士の相互評価の場」を単元に位置づけていきたい。 	3		<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果(数値)については、調査の趣旨に鑑み、生徒の学力向上を図るための現状を把握する機会と捉えてもらいたい。 定期試験の問題や、家庭学習の取り組みせ方について工夫する。 情報収集を単元のどこでどのよう位置づけるか、振り返りの時間をとる、生徒全員の理解を高める上で有効であると思う。 先生方の日々生徒と向き合う取り組みに敬意を表したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間1人1回の授業研究を通して、「授業デザイン」への意識を高めていく。 定期試験の問題や、家庭学習の取り組みせ方について工夫する。 情報収集を単元のどこでどのよう位置づけるか、振り返りの時間をとる、生徒全員の理解を高める上で有効であると思う。 先生方の日々生徒と向き合う取り組みに敬意を表したい。
			<p>「先生は自分たちの学力向上のために工夫して授業してくれている」と感じている生徒の割合【新規】</p>	100%	96%	95%	95%	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中に小テストを位置づけたり、それに伴う家庭学習を与えたりしたことで、定期試験等の正答率が高まった教科が増えた。 定期試験の問題や、家庭学習の取り組みせ方については、今後も工夫が必要である。 3学期には、基礎・基本的な学力の定着を目的とする「因北中検定」を実施する。 	3				
			<p>課題設定・課題解決学習に係る教師アンケートの肯定的評価の割合85%以上。【昨年度80%】</p>	85%	71%	78%	92%	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元構想の中に、話し合いの場面や、日常生活や他教科で活用したりするような活動を位置づけることは概ねできている。 「授業デザイン」を意識した授業展開を全教科で研究してきたため、「生徒が「やってみよう」と思えるような課題の設定」に力を入れて取り組むことはできた。 	3				
			<p>自ら積極的に挨拶ができ、レベル4以上の挨拶を実行した生徒の割合【昨年度90%】</p>	95%	61%	64%	68%	C	<ul style="list-style-type: none"> レベル4の挨拶を意識できている生徒は82%と、意識している生徒は多いが行動に移せていない。全校生活において、日常生活の中で声を贈っていくことの大切さについて、全校で周知し、確認することができた。また、授業の開始や終わりの挨拶で声を出していけるよう生徒会と連携し、取り組んでいく。 	3		<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、地域でもよく挨拶ができている。学校であったことを楽しそうに話しながら帰る姿を見るとほのほとする。 不登校生徒が多いように思うが、それぞれ状況は様々であると思う。それぞれの状況に応じた取り組みをお願いしたい。 学校行事等で学校を訪れると、生徒が活動に対して意欲的であり、学校生活を楽しんでいることがよくわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> レベル4の挨拶への意識を上げていくとともに、行動へ移せるよう教員の側から積極的に指導していく。 GWで達成率の低い内容については、2学期も取り組みを進めていく。また、強化週間の期間だけではなく、普段の生活の中で取り組んだことを意識させていく必要がある。 不登校生徒の減少を最重点課題とし、細やかな状況把握と保護者連携に努め、その状況 	
<p>【自己指導能力の醸成】</p> <p>望ましい人間関係を構築する力、自己効力感・有用感の醸成を図る。</p> <p>○暴力行為、いじめゼロ及び新たな不登校者数ゼロ。</p>	<p>【活力】</p> <p>○組織的・積極的な生徒指導を充実させるとともに、自己指導能力を育成する。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させ、たくましく生きるための健康づくり・体力づくりを推進する。</p>	<p>【集団活動の充実】</p> <p>◎全校学活、全校集会、学校行事等を中心とした、取組の目的と目標の明確化及びめざす姿の具体化を図る。</p> <p>【生徒会執行部を中心とした、自主的・主体的な活動の充実】</p> <p>◎各委員会の強化週間の徹底</p>	<p>各種委員会活動における強化週間(GUW)の達成率【昨年度86%】</p>	90%	82%	87%	97%	B	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会でGUWの結果をもとに、内容や方法について改善するために話し合う場を設けることで生徒自身で考えていく取組に繋がった。 	3				
<p>【組織力で前進】</p> <p>コミュニケーションと「報連相」を大切にし、やりがいと誇りの持てる学校づくりを推進する。</p> <p>○不祥事ゼロ</p>	<p>【組織力】</p> <p>組織的・戦略的な学校運営</p> <p>○組織的な教育活動の推進と進捗管理の徹底</p>		<p>「先生は面接等で親身になって相談に応じてくれる」と答えた生徒の割合【新規】</p>	100%	93%	86%	86%	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員は教育活動に熱心に取り組み、各活動において適切に生徒を評価している。生徒との面接等を計画し、全校で行っていくような体制づくりを行っていくことも考えていく必要がある。 	3				
			<p>【組織的・戦略的教育活動の展開】</p> <p>○学校経営戦略会議・生徒指導委員会、教育研究委員会の定期開催と分学会・学年会・各種委員会の相互連携</p>	<p>教育活動に充実感や達成感を感じる教職員の割合【昨年度81.3%】</p>	100%	95%	94%	94%	B	<ul style="list-style-type: none"> 「職員間での情報共有によって、様々な教育活動に見通しを持って取り組むことができていく」「因北ナビゲーション」を基盤とする統一した指導を徹底している」教師の割合は、年間を通して92%であった。 学校経営会議の定期開催や、主任・主事同士の相互連携を通して、組織的な学校経営に努めるとともに、教職員一人ひとりが学校経営に参画していこうとする意欲の醸成を目指した。 	3			
総合指標(1年間)				① 学校生活に満足している生徒の割合 ② 学校教育に満足している保護者の割合	95%以上(昨年度85.0%)	95%以上(昨年度95.0%)	95%以上(昨年度85.0%)	95%以上(昨年度95.0%)		7月: 86% 1月: 88%	7月: 92% 1月: 91%			

【自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成)
 C: 60≦(もう少し) < 80
 B: 80≦(ほぼ達成) < 100
 D: (できていない) < 60

【学校関係者評価】
 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
 ハ: わからない。